

## 『地震と防災－“揺れ”の解明から耐震設計まで』

(中央公論新社、2008年8月)

正会員 武村雅之君

本書では、著者の長年の研究成果をもとにして、地震の発生メカニズムから地震の評価尺度そして防災対策及び耐震設計法に至るまで幅広く記述がなされている。地震防災に関する著述は多く存在するが、著者が専門家として現時点における最新の研究成果を熟知したうえで、建築に携わる専門家から専門外あるいは地震防災に知識の少ない読者に至るまでそれぞれの立場で理解を深めることができるように、地震に関する理論的背景や現象の考察を平易かつ的を射た表現を使って記述していることは高く評価される。これは、長年にわたり著述を重ね練達した筆致を修得してこられたことであろうが、建設会社という民間企業に身を置くことでクライアントや関係するステークホルダーに直接あるいは間接に理解を得るための資料を提供し説明を行うという経験を重ねてこられたことも、その要因のひとつではないかと思われる。このことは、本書が専門外の人々にとっても読みやすく理解をより深めることができることに役立っている。また、今後建築に関する専門知識を専門外の人々に説明する機会が増える中、建築の専門家にとっても大いに参考となる書である。

本書は2008年に刊行されているため、2011年3月に発生した東日本大震災に関する記述はなされていない。しかし、津波も含め当該地震の発生メカニズムや学ぶべき教訓に至るまですでに本書で的確に述べられており、本書の価値をさらに高めることとなっている。

以上の観点から、本著書は、地震防災に関する理解を専門家のみならず非専門の多くの人々に可能とし、建築知識の社会への普及啓発に大きく寄与したと判断する。

よって、ここに日本建築学会著作賞を贈るものである。